

## 令和4年度 長岡技術科学大学 学生生活実態調査結果(概要)

このたび令和4年度学生生活実態調査結果が纏まりましたのでお届けします。前回は第7回目として平成28年度に行われました。詳細はご覧いただきたいと思いますが、幾つか特徴的な結果をご紹介します。

前年に引き続き学生の授業理解度と本学に入学して満足と思う学生は高い比率となっています。生活面では、煙草を吸わない学生、お酒を全く飲まない学生が双方とも増加し、サークルに加入している学生は、減少しています。本学を選ぶ理由として「実務訓練があること」を上げた学生は大多数となっています。学生相談については、健康、精神衛生、ハラスメント等の相談窓口を知っている学生が70%以上いる反面、相談しようと思わない学生は2/3程度にまで至っています。今後更なる周知・認知と利用しやすさの向上の必要性を感じています。また、「生活状況の傾向」⑦⑧⑨の調査結果もご覧いただき状況を認識していただければと思います。

今回の調査結果は、コロナ禍による学生の苦悩も伺い知れ、今後、ポストコロナ禍でのオンライン講義はじめとする学生指導等の改善には、教職員の皆様のご協力をお願いいたします。最後ですが、今回の調査結果は、今後の教育、学生生活支援の充実に役立てたいと思います。ご協力いただいた学生の皆さんに感謝します。

長岡技術科学大学 学生委員会委員長  
理事・副学長 和田 安弘

### 調査の概要

#### 1. 調査の目的

この調査の目的は、本学学生の大学生生活全般について調査し、学生生活の実態及び学生の意識並びに学生の意見・希望等を把握し、学生支援の成果を確認・検証するとともに修学指導、課外活動の一層の充実に図るための方策等を検討するための基礎資料を得ることである。

#### 2. 調査の組織

本学学生委員会が「学生生活実態調査」に関する調査項目の検討及び調査結果の分析・編集を行った。

#### 3. 調査の方法

令和4年7月1日現在で調査し、7月1日～15日の期間全学生を対象にWeb入力によるアンケートを実施した。なお、回答の便宜性を考慮して、前回調査より設問数を半分程度に削減した。

#### 4. アンケートの回答状況

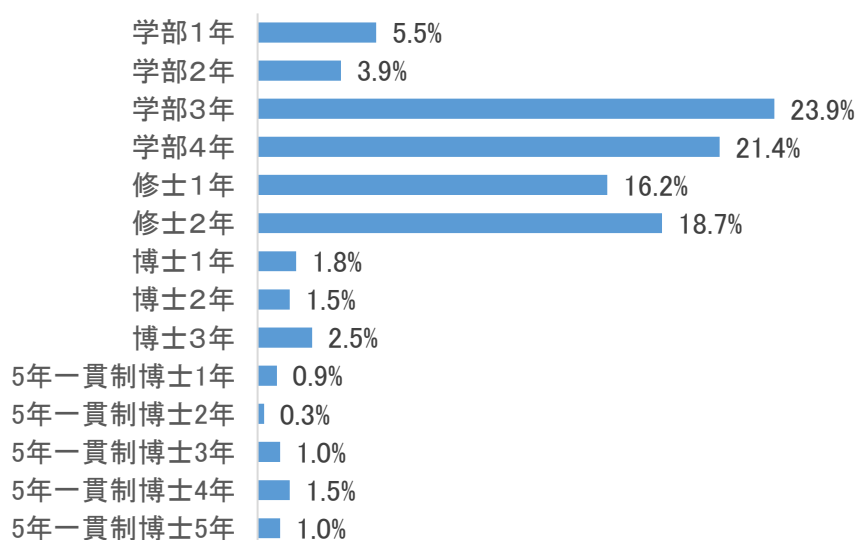
回答状況は、次ページのとおりである。

#### 5. 調査結果

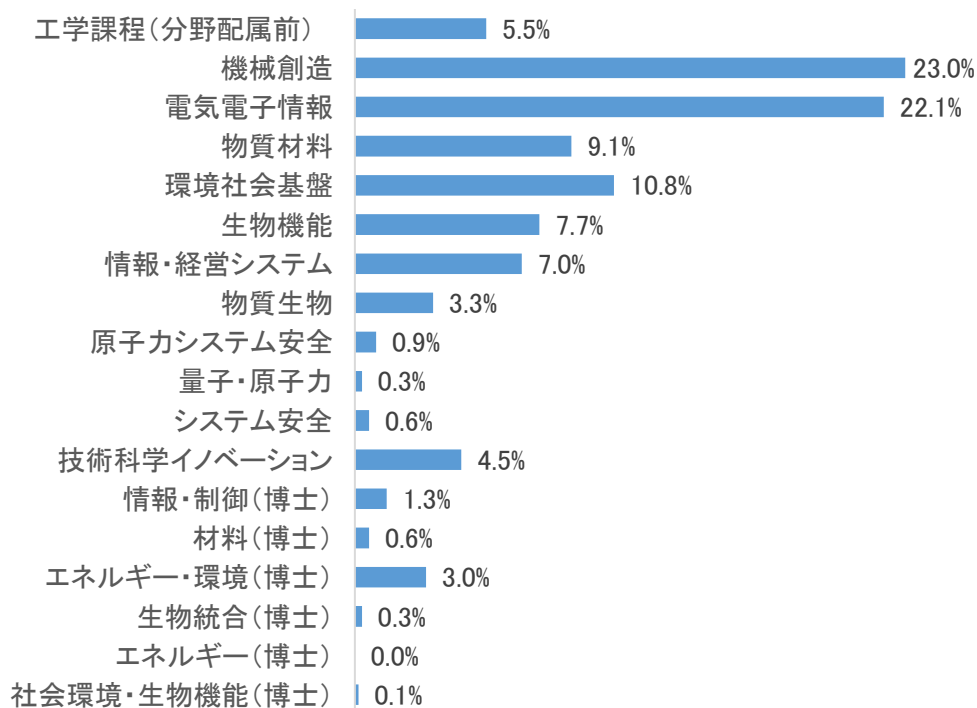
令和4年度学生生活実態調査の主な質問事項の回答の概要である。

～調査に協力してくれた皆さん～

### データの個数 / ①学年



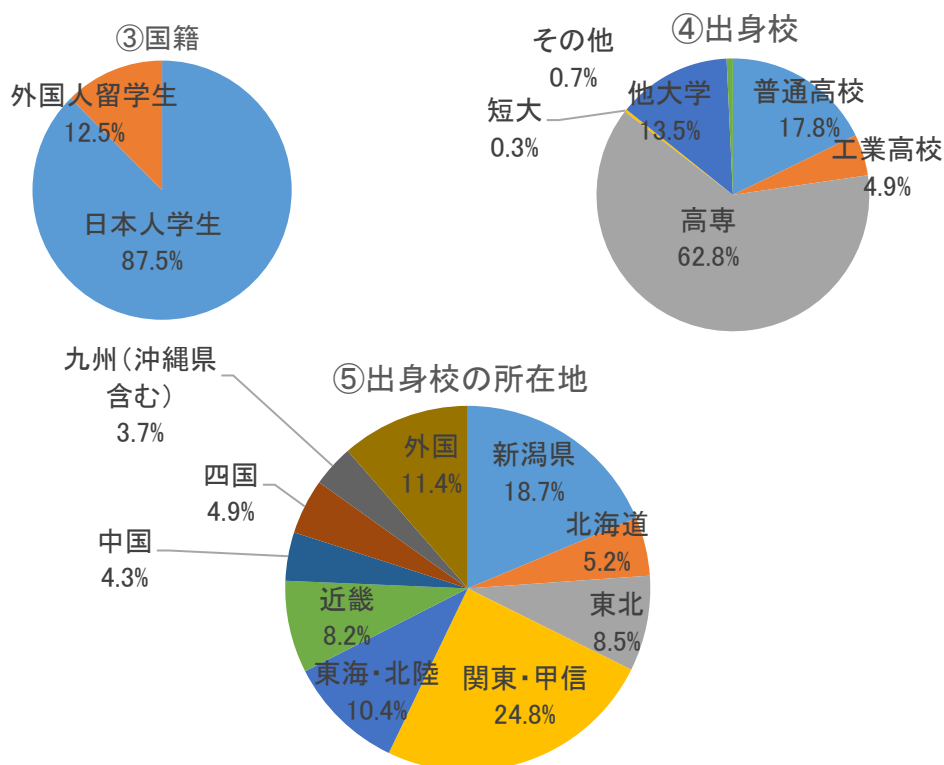
### ②所属



## I 入学・進学について

### 入学者の傾向

入学者の傾向は、前回の調査結果(平成 27 年度)と大きな変化は生じず、高専出身者が 62.8% (前回は 66.9%)、東日本の地域から約 75%の入学者を占める結果となった。新潟県内を出身校とする学生の割合が 18.7%となり、前回の結果(25.2%)から減少した。一方で、西日本地域(近畿、中国、四国、九州)からの入学者が微増(5.5%)した。なお、外国人留学生の回答割合が 12.5%であり、前回(5.9%)よりも 2 倍ほど増加している。



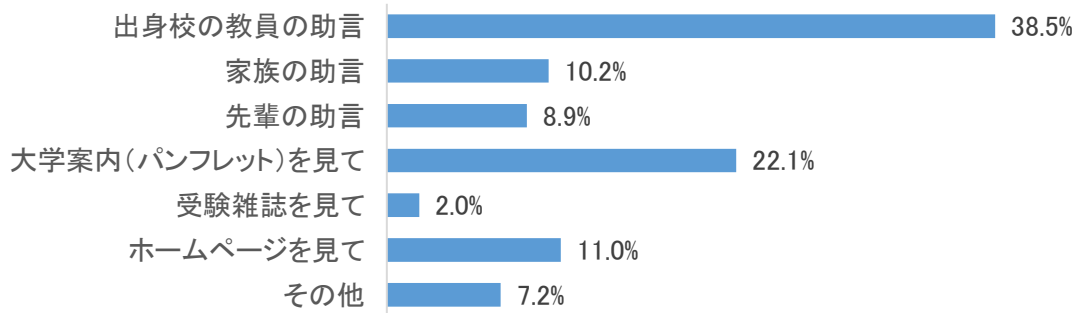
### 本学への進学理由の傾向

本学を知った傾向は、出身校の教員の助言(38.5%)、大学案内を見て(22.1%)、ホームページを見て(11.0%)の順で高い結果となった。前回の調査結果と近い傾向ではあったが、今回の結果では家族の助言(10.2%)が微増(前回 7.5%)した。その他の項目では、「本学教員による高専での大学説明や出前授業によって知った」との回答が多い結果となった。

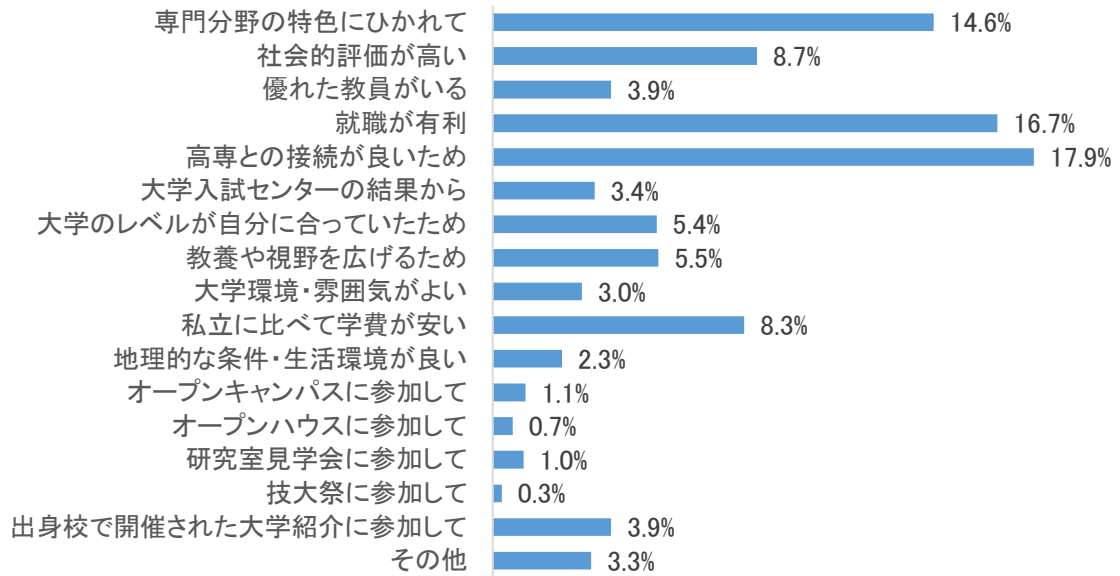
本学への進学理由の傾向は、高専との接続が良い(17.9%)、就職が有利(16.7%)、専門分野の特色(14.6%)の順で高い結果となった。その他の項目では、「実務訓練があること」が大多数の回答を占めており、実務訓練を目的に本学への進学を選択する傾向も確認できた。

本学の入学に関しては、全体の 89%が満足している傾向となり、前回の調査よりも 5%ほど増加した。また、不満足や進路変更を考える理由としては、教員との関係、立地条件に関する回答が多かった。

⑥本学のことはどのように知りましたか

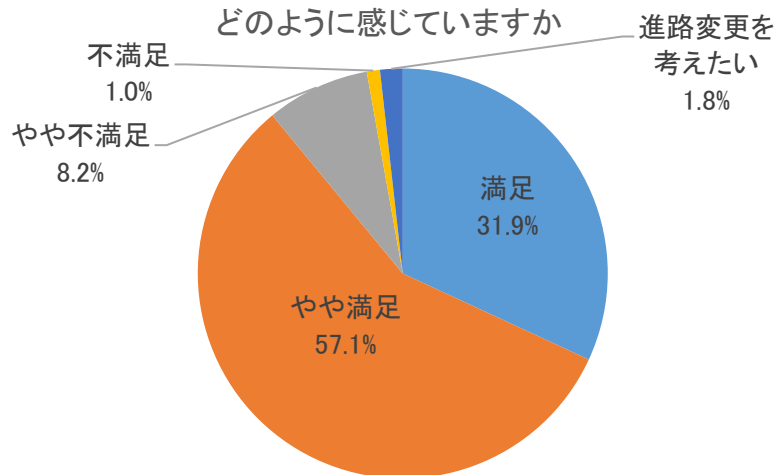


⑦進学先として本学を選んだ理由



⑧本学に入学して

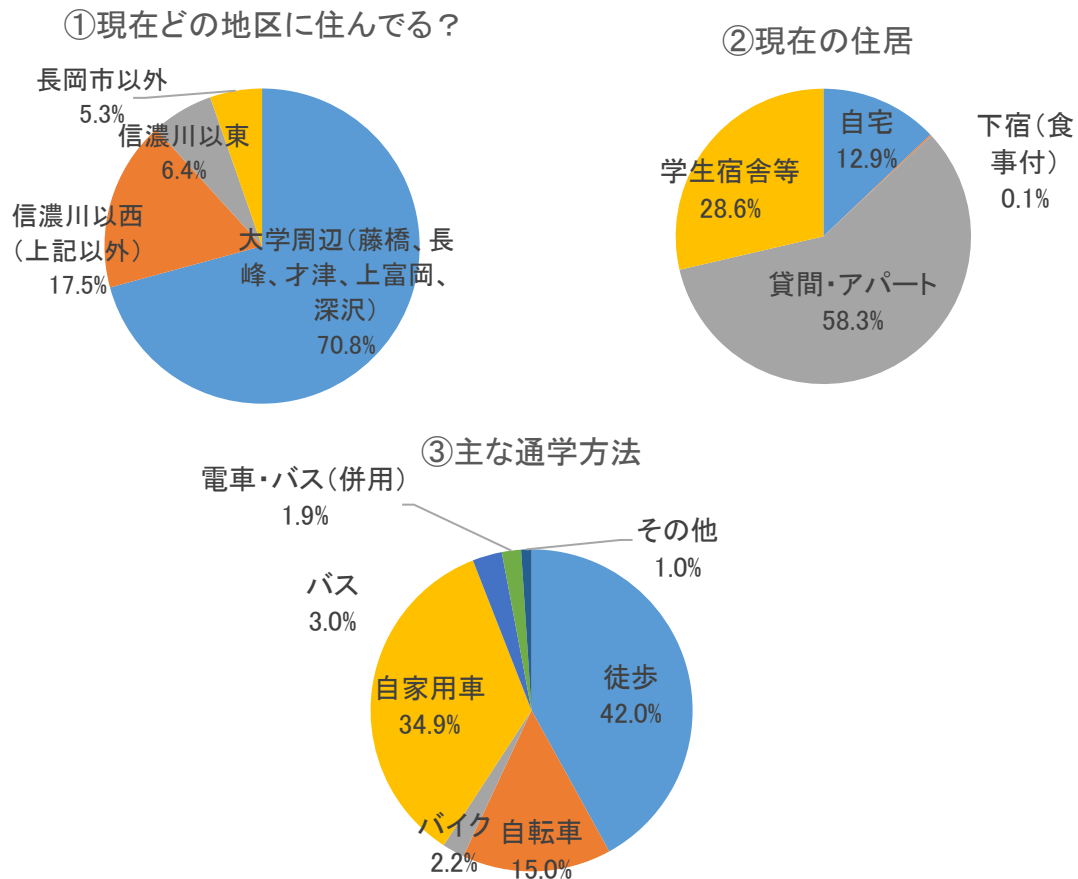
どのように感じていますか



## Ⅱ 生活環境について

### 住居および通学の傾向

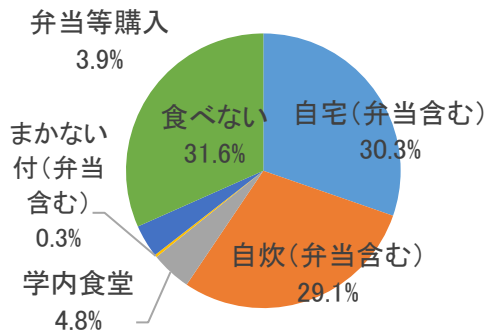
住居および通学の傾向は、大学周辺(70.8%)、信濃川以西(17.5%)、信濃川以东(6.4%)の順で高い結果となった。また、居住場所では、貸間・アパート(58.3%)、学生宿舎等(28.6%)、自宅(12.9%)の順となり、前回の調査結果と比べ、学生宿舎等の利用者が8.5%増加した。そのためか、通学方法も徒歩(42.0%)が大きく増加(前回28.4%)している。また、大学の立地と公共交通機関の利便性に関する影響もあり、自家用車通学も高い割合(34.9%)を維持している。



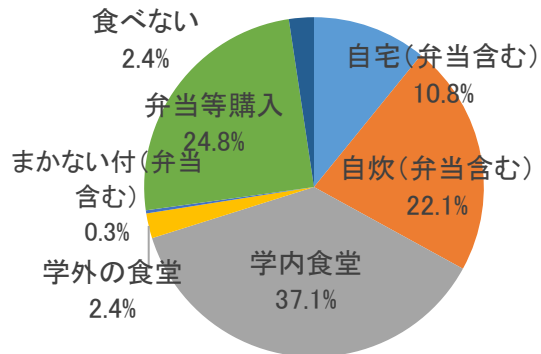
### 食生活の傾向

食生活については、毎日朝食を食べない学生が31.6%と最も高い結果となった。昼食は、学内で食事をする学生が約84%(学内食堂、弁当等購入、自炊での弁当)となり、食べない学生は2.4%であった。最後に夕食を食べる学生は、自炊(弁当含む)44.0%、自宅(弁当含む)30.6%となり、帰宅後に夕食を食べる学生が74.6%ほどいる傾向となった。

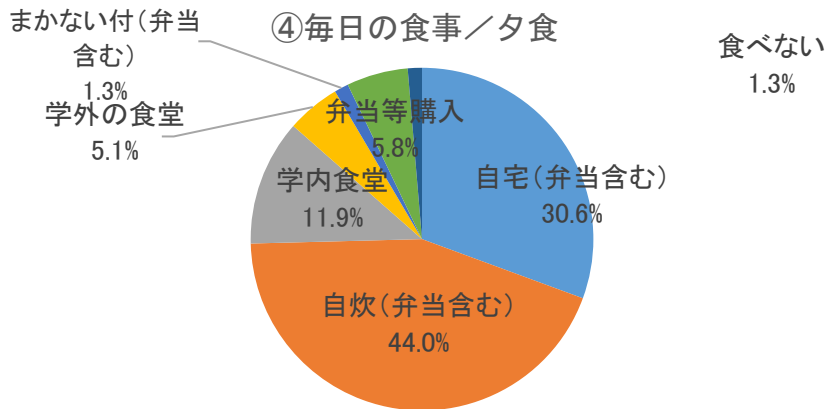
④毎日の食事／朝食



④毎日の食事／昼食



④毎日の食事／夕食



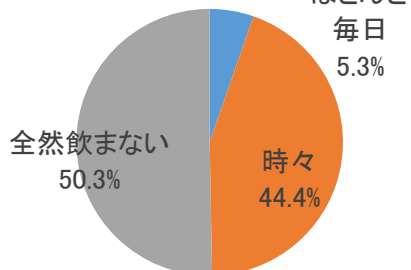
### 生活状況の傾向

飲酒の習慣は、全然飲まないが 50.3%となり、前回(40.3%)と比べ 10%増加した。喫煙も同様に全然吸わないが 93.8%となり、前回(90.3%)と比べ 3.5%増加した。

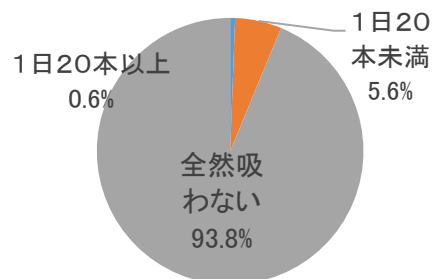
違法薬物について勧められたことがある 0.7%、悪質商法に勧誘されたことがある 6.1%、宗教の勧誘をされたことがある 37.3%となり、学生への注意喚起と具体的な対策を講じなければならない結果となった。

所有物等の回答では、携帯電話・スマートフォン 27.6%、パソコン 26.7%、タブレット 11.1%となり、低い結果(今回は 94%以上が所有)となった。この原因はアンケートの回答方法に問題があったためと考える。なお、インターネット環境はほぼ全ての学生が利用できることを確認できる。少なくとも、学内および研究室では Wi-Fi 接続可能な通信環境を整備している。

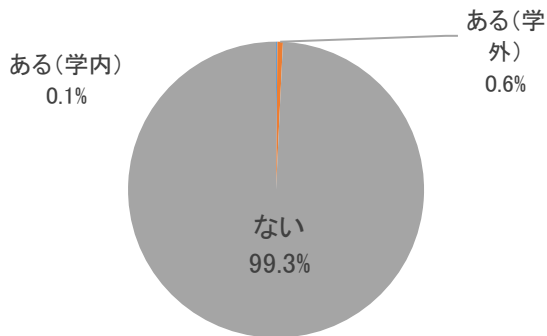
⑤飲酒習慣



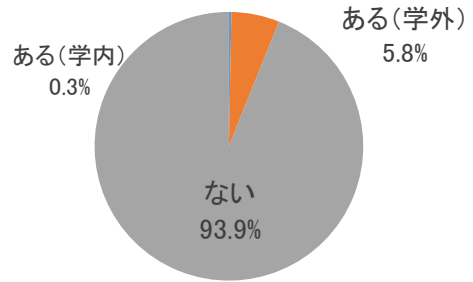
⑥喫煙習慣



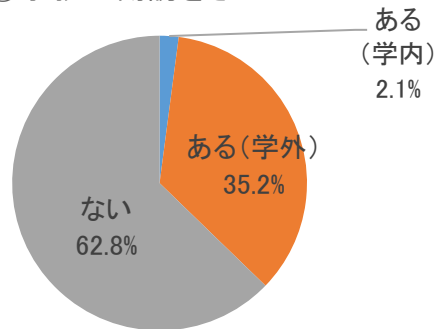
⑦違法薬物を勧められたこと



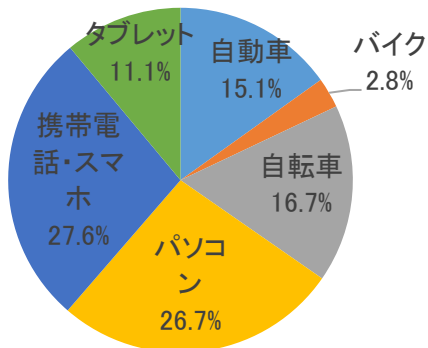
⑧悪質商法に勧誘されたこと



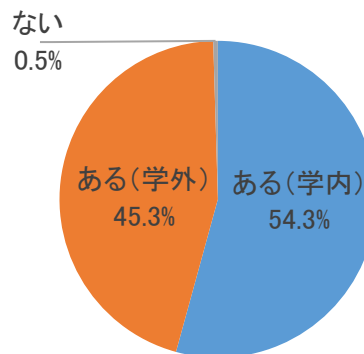
⑨宗教の勧誘をされたこと



⑩所有しているもの



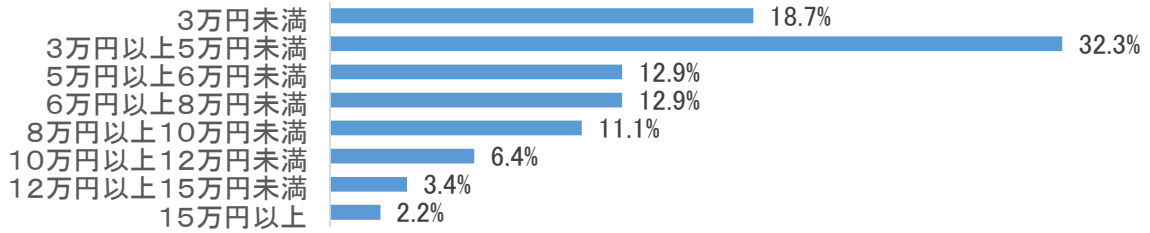
⑪インターネット環境



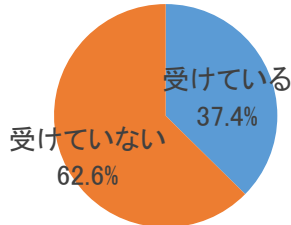
### Ⅲ 収入・支出、アルバイトについて

生活費の金額は月 5 万円以下が 51%と前回 (45.4%)と同じ程度である。経済状況は苦しい(14.8→14.8%)、やや苦しい(23.6→28.9%)、普通(46.2→45.4%)となり前回調査と同様である。アルバイトをしている割合は 65.4%であり、多くの学生がアルバイトをしている様子である。アルバイトを「生活のために必要」と答えている学生はそのうち 42.8%である。アルバイトの 1 か月の平均従事日数で月 16 日以上が 15.3%である。前回の 12.4%から増えている。

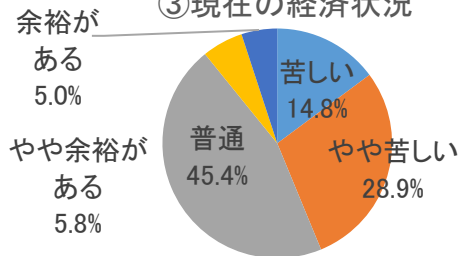
#### ①1か月間の生活費



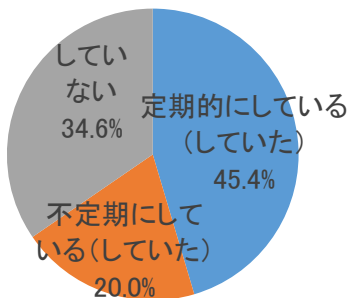
#### ②奨学金



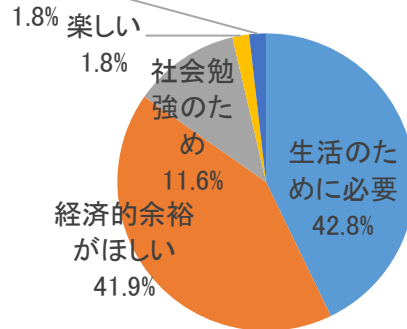
#### ③現在の経済状況



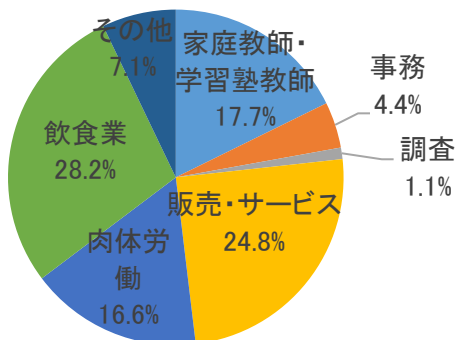
#### ④アルバイト



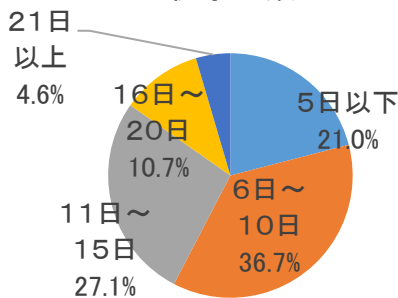
#### ⑤アルバイトが必要な理由



#### ⑥これまで従事したアルバイト



#### ⑦アルバイトの1か月の平均従事日数

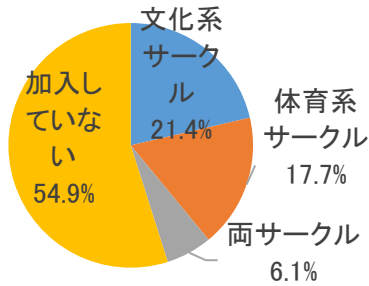




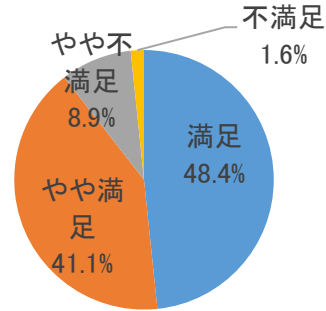
#### IV サークル、ボランティア活動について

サークル加入率は 45.2%と前回の 57%から減少している。これまでの調査では加入率は増加傾向であったが、ここに来て減少傾向に転じている。コメント欄に、「コロナ禍における活動縮小、自粛」、「体育館を使用できる時間が短い」、トレーニングルーム施設への不満がある。これらも要因のひとつではなかろうか。

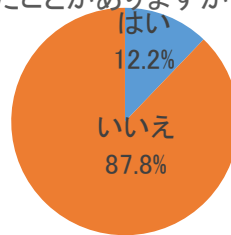
①現在加入しているサークル



②サークル活動に満足してる？

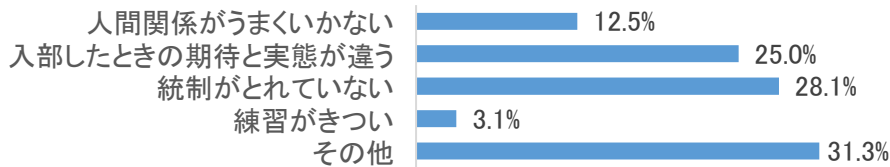


③大学入学後、ボランティア活動をしたことがありますか

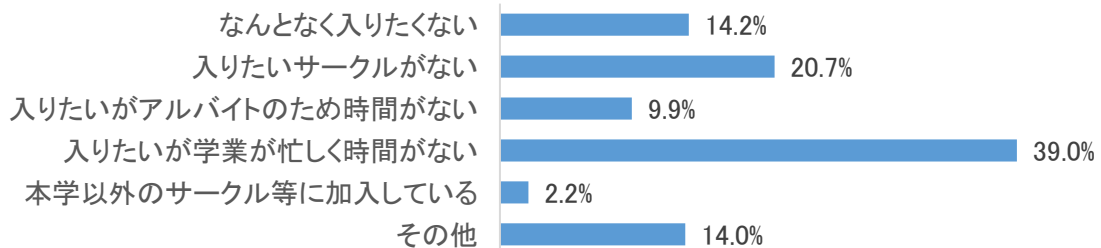


④その理由

②で「やや不満足」「不満足」



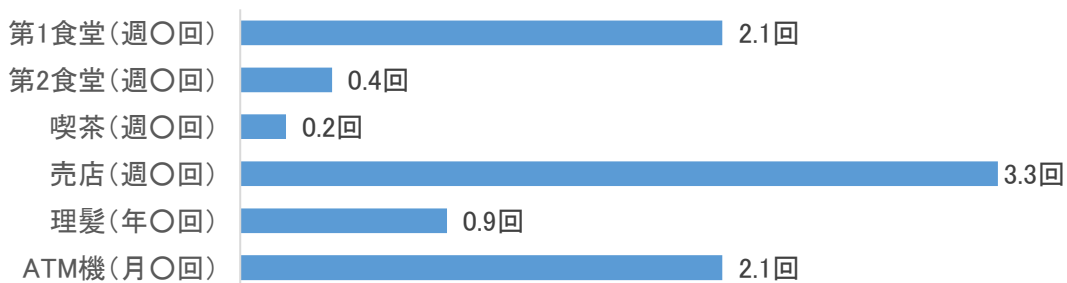
⑤サークルに入らない理由



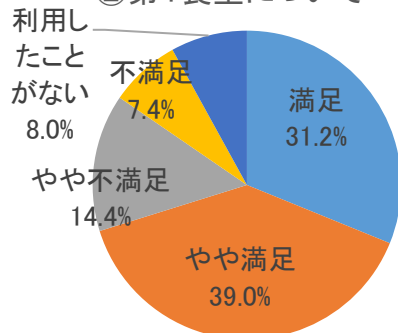
## V 福利施設について

施設の利用頻度は、売店が週に約3回、第1食堂とATM機が週に約2回である。第1食堂の満足度は「満足」と「やや満足」を合わせて70.1%、これは前回調査より7.1%増である。主要な不満の理由は、「質が悪い」、「値段が高い」、「営業時間が短い」、「量が少ない」、「味がよくない」、「メニューが少ない」の順に多く、これらは全て10%を超えている。売店の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせて84.5%で、前回調査より10.7%増である。不満の理由は、「値段が高い」が47.1%で最も多く、その他、「取り扱い商品が少ない」、「営業時間が短い」の順に多い。今後置いて欲しい商品は、「惣菜のみの販売」、「ヘルシーな和食弁当」、「ハラル弁当」などの意見があった。自販機の設置台数は、83.4%が「適当」と回答した。電子マネーは「利用している」が59.8%で、これは前回調査より8.2%増である。電子マネーを利用しない理由は、「現金決済がいいから」と「入金が面倒だから」が多くなった。

①福利施設利用回数(平均)

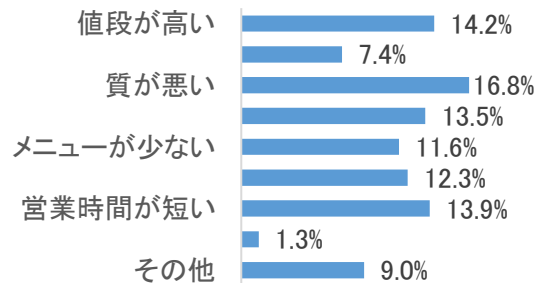


②第1食堂について

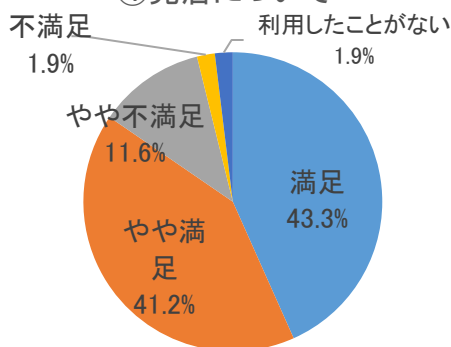


③主な理由

②で「やや不満足」「不満足」

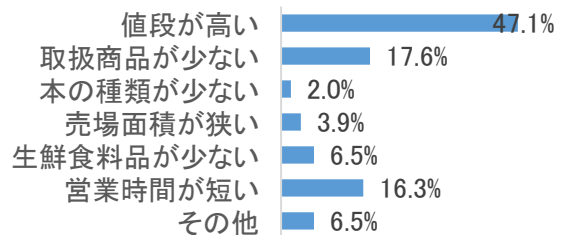


④売店について

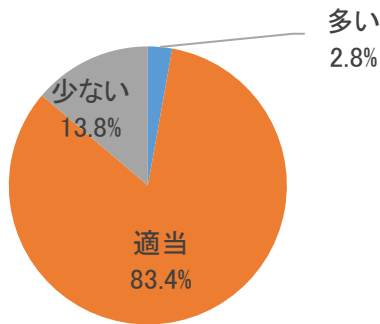


⑤主な理由

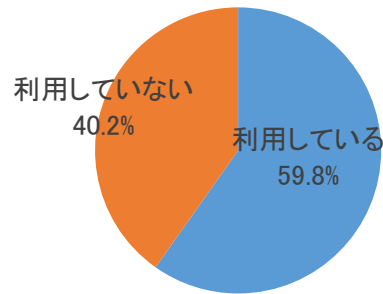
④で「やや不満足」「不満足」



⑥ 自販機の設置台数



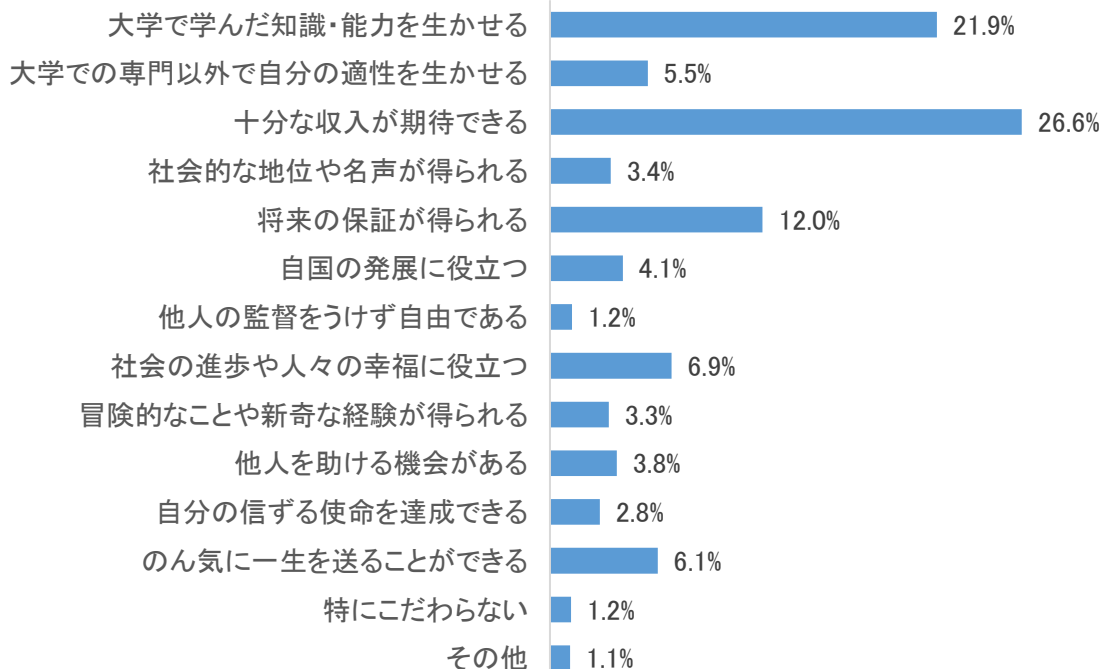
⑦ 電子マネー



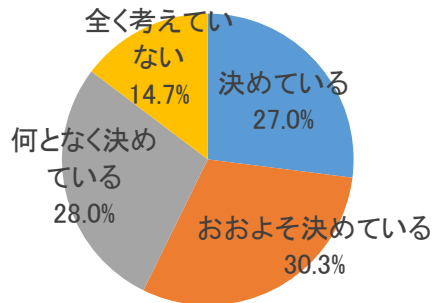
## VI 就職について

将来就きたい職業を決めているのは、「おおよそ決めている」を含めて 57.3%と前回調査よりも 1.9%増加した。一方、「全く考えていない」は 14.7%と、こちらも前回調査よりも 2.4%増加した。仕事を選ぶ際に重視することは、「十分な収入」、「大学で学んだ知識・能力を生かせる」、「将来の保証が得られる」の順に多く、それぞれ 10%以上の割合であった。希望する企業規模は、「大企業」と「中堅企業」を合わせて 52.4%と前回調査より 1.0%低下した。一方、「規模にこだわらない」と「ベンチャー企業等」は微増した。希望する勤務地は、「どこでも良い」が 38.3%で最も多く、前回よりも 2.4%減少した。一方、「名古屋周辺」、「大阪周辺」、「その他の都道府県」の合計は、前回よりも 5%ほど増加した。希望する勤務地で選んだ地域が出身地である割合は、52.6%とおよそ半分であった。

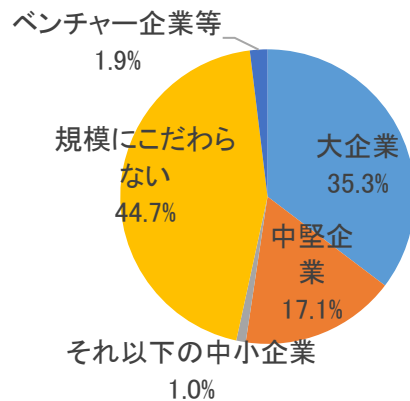
### ① 仕事を選ぶ際に重視すること



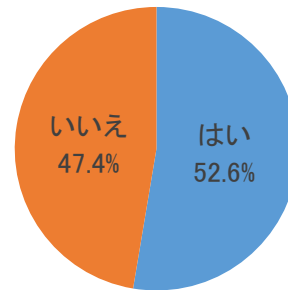
②自分が将来どういう職業に就きたいかを決めていますか



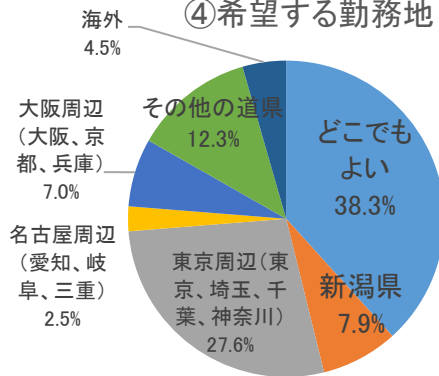
③希望する企業の規模



⑤④で選んだ地域は出身地ですか



④希望する勤務地



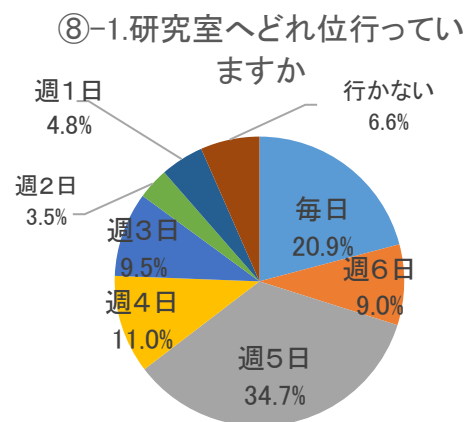
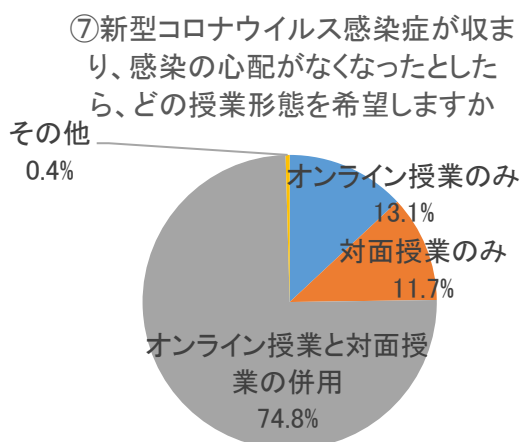
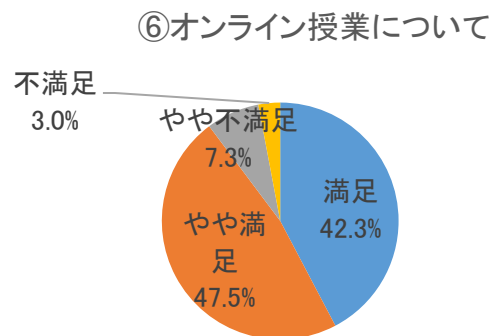
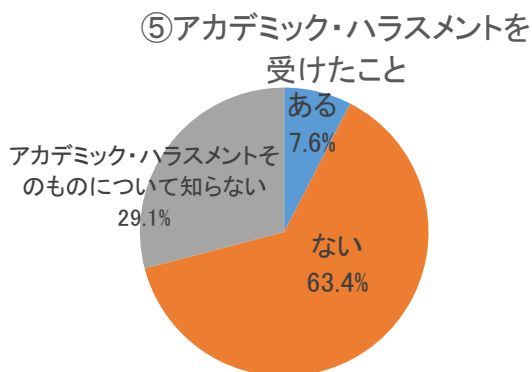
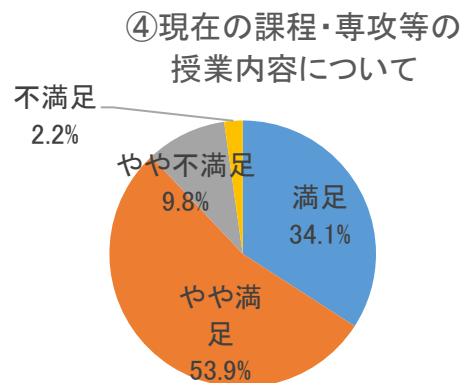
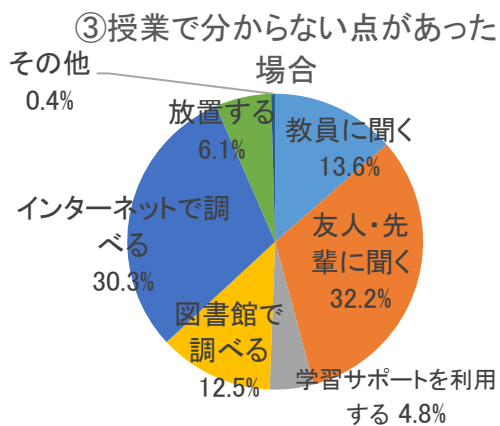
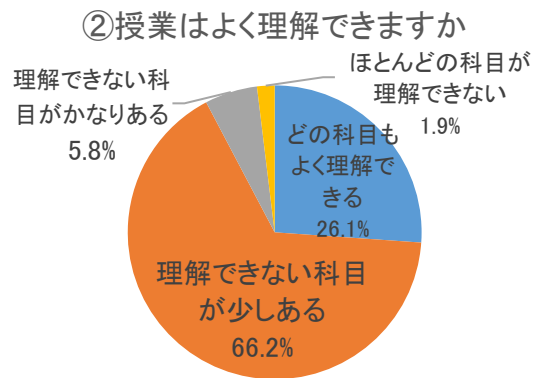
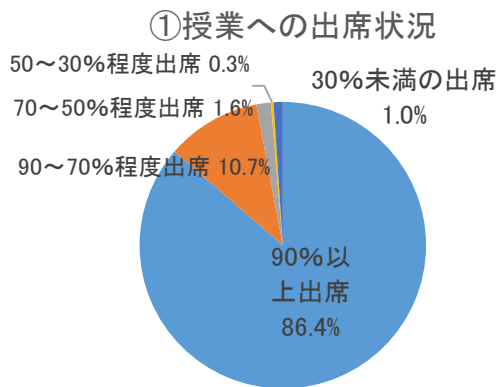
## VII 授業・学習について

授業内容の理解度と満足度は前回調査より向上し、オンライン授業も高い満足度となっている。また研究室で過ごす時間は長く、満足度は高い傾向がある。

授業理解は、93%程度の学生がだいたい授業を理解できている。前回調査と比較すると、その割合は、85%から 8%程度増加している。その内訳は、「どの科目もよく理解できる」が 10%以上増加し、「理解できない科目が少しある」が 3%以上減少している。これらのことから全体として授業理解度は向上していると言えるだろう。さらに、約 9 割の学生が授業内容にほぼ満足しており、また「満足」は前回から 6.9%増加しており、満足度について向上の傾向が、(前回調査から)継続している。

また新型コロナウイルス蔓延に対する対策として 2 年前から本格的に導入されたオンライン授業についても約 9 割の学生がほぼ満足しており、そのうち「満足」が 42.3%と大きな比率を占めている。

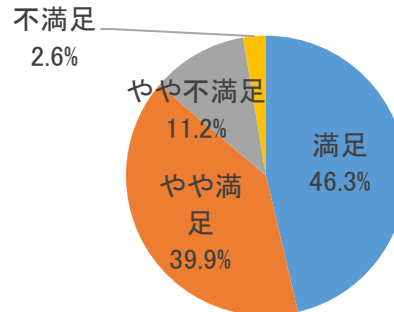
コロナウイルス感染症の収束後を想定した授業形態としては、75%程度の学生が「オンライン授業と対面授業の併用」を希望している点は注目に値する。



⑧-2. 研究室での1日平均の滞在時間

平均 6.9時間

⑧-3. 研究室での実験・研究・ゼミに対する満足度



**VIII 学生相談について**

・健康状態

健康状態は「良い」50.0%「どちらかといえば良い」35.0% を合わせて 8 割以上であり、前回調査の「良い」51.9%「どちらかといえば良い」34.2%と同様、概ね良好な体調で学生生活を送っていることが分かる。

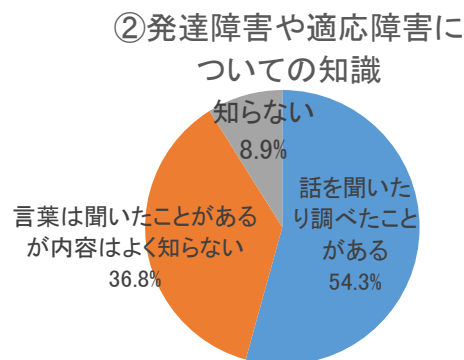
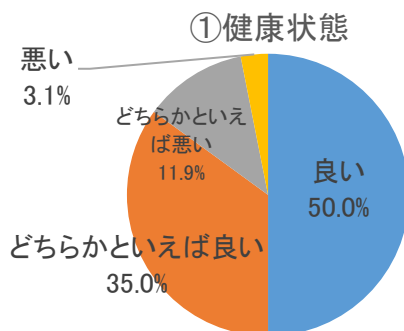
・悩み事の相談相手

前回 39.4%で 1 番多かった「同性の友人」が今回調査では 31.0%で 2 番目となり、代わりに「母」が前回 21.8%の 2 番目から今回 35.6%で 1 番目となった。「父(前回 8.6%)」も 10.4%に増えており、コロナ禍において対面で話をする機会が変化した(友人と話をしにくく、父母とはしやすくなった)ことが一因と考えられる。

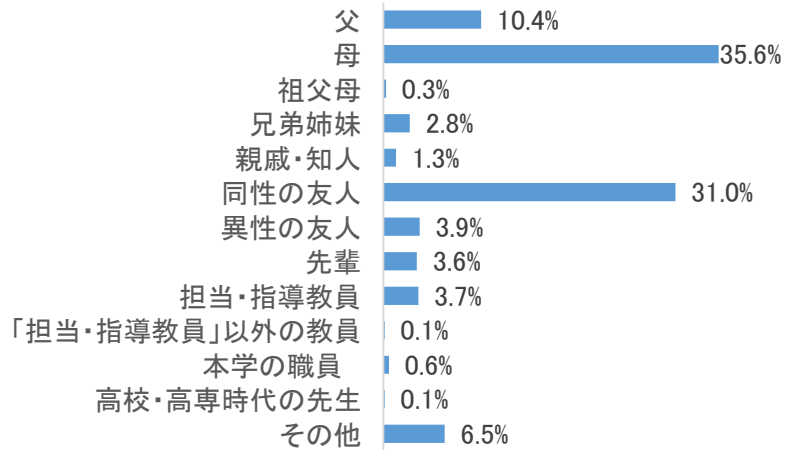
・学内の友人

「何でも話せる(前回 41.8%→今回 35.6%)」「一応親しい(48.2%→52.7%)」を合わせると約 9 割の学生が学内に親しい友人を作れていることが分かるが、「何でも話せる」が 6 ポイント減り、「親しい友人はいない(5.6%→7.1%)」の回答も増えており、前述の「悩み事の相談相手」で「同性の友人」が減った一因になっていると考えられる。

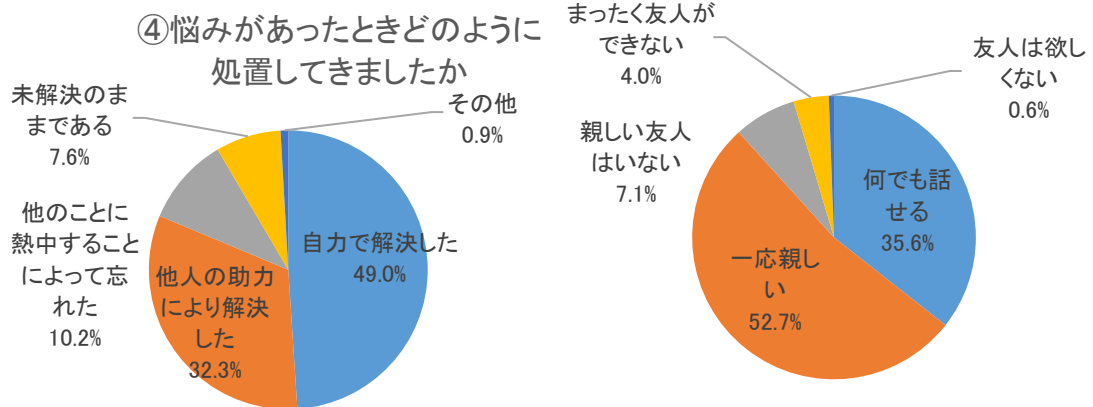
・「体育保健センターでの相談」は「知っている」が前回 62.1%→今回 70.9%、「学生なんでも相談窓口」は「知っている」が 73.8%→85.2%、「相談しようと思うか」は「相談しようと思う」が 24.2%→34.4%、といずれも顕著に増加しており、トイレに貼り紙をするなど周知方法の効果が現れていることが一因として考えられる。



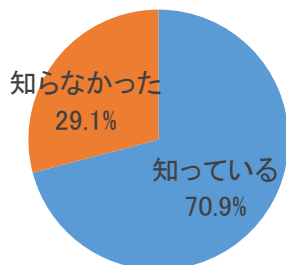
③問題や悩みに直面したとき、  
一番最初に相談する相手



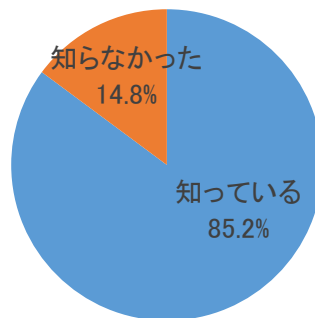
⑤学内に、どの程度つき合える  
友人がいるか



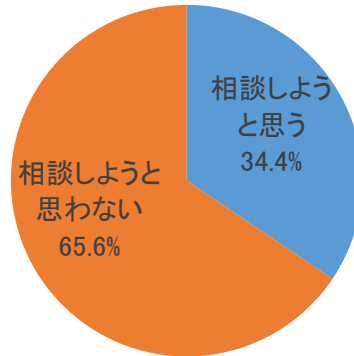
⑥体育・保健センターで、  
健康相談・精神衛生相談・セ  
クハラ相談  
を行っていることについて



⑦「学生なんでも相談窓口」に  
ついて



⑧悩み事を、体育・健康センターの  
カウンセラー又は、学生なんでも相談  
窓口にご相談しようと思いますか



**Ⅸ その他意見・希望等**

・研究室に週5回以上行っている学生が64.6%、また研究室で1日平均6.9時間を過ごしている。また研究室での実験・研究活動に85%以上の学生がだいたい満足しており、そのうち「満足」は46.3%と大きな比率を占めている。

アカデミック・ハラスメントについては、受けたことのない学生(63.4%)とそもそも知らない学生(29.1%)で92.5%であるが、他方7.6%が「ある」と回答している。今後、ハラスメントについての知識の向上と合わせて善処が求められるところである。